

平成22年 2月定例会－02月25日-04号（市議会会議録より抜粋）
神奈川ネット代表質問 太田治代

次に、**国道134号線問題**について伺います。

昨年（平成21年）の台風18号では大波が打ち寄せ、国道134号線沿いの七里ヶ浜と稲村ヶ崎では3カ所が崩落する災害に見舞われました。県が緊急対策として今年度中に改修をいたします。しかし、国道134号線自体は昭和30年代に建造された道路で、老朽化が進み、大変危険であるとの情報を得、ネット鎌倉では、専門知識を持つ市民とともに、現地調査及び神奈川県、国交省からの聞き取り調査を行いました。

ここ数年、海浜の砂が減少し、道路を支える土台がむき出しとなっています。道路の土台はコンクリートブイの上にコンクリートのふたをしたものです。今までは砂に覆われ、見えなかったものが、平成元年ごろからコンクリートブイが露出し、鉄筋もさびてきている状態です。さらに、杭と杭の間に空洞化をしている場所が見つかりました。本来は杭が地中の岩盤にまで打ち込まれることで安全性を保つのですが、藤沢土木事務所が昨年の災害後、崩落箇所のみを調査をした結果、一部岩着していないことが確認されました。しかも、平成元年の大がかりな調査では、既にコンクリートが劣化し、危険であるとの指摘がされていました。危険を認知しながら改善してこなかったことで、今回の崩落が起こってしまったと言わざるを得ず、行政としての責任は重いと考えます。まずは所管する県が調査をし、危険度の高い箇所から順次改修していくことが必要ですが、鎌倉市としても市民の安全を確保することは当然のことです。市長の見解を伺います。

また、**国道134号線**には、**下水管が埋設されています**。七里ヶ浜の行合橋から由比ヶ浜にかけての下水道本管は昭和40年代につくられており、大変古いものです。また、当時の工法は道路上から掘削をしているため、**地下2メートルという浅いところに埋設**をされています。しかも、海岸線に近く、道路の状態が悪いために、**台風18号のような災害が再び起きれば、下水管は崩落の危険性があり、汚水が海に流れ出る可能性も否定できません**。市として、今後の対応はどのようにお考えでしょうか。

<松尾市長答弁>

次に、国道134号線の道路の陥没についての御質問です。

平成21年10月8日に台風18号の影響で、国道134号の七里ヶ浜一丁目周辺で被害があったことは承知をしております。国道134号は鎌倉市としても市内を横断する重要な幹線道路であります。神奈川県が管理する国道であることから、県に

対し、早期復旧を要請してきたところであります。今後も、国道 134 号の安全対策につきましては、重点的に取り組むよう、県に要請をしております。

次に、国道 134 号線問題について、下水道についての御質問です。

下水道施設の計画的な改築を推進するため、平成 20 年度に国土交通省において、**下水道長寿命化支援制度**が創設されました。本市におきましても、**国道 134 号に埋設されている下水道の管渠の改築等については、現在、基本的な構想等を検討しており、実施方法について、今後下水道長寿命化計画の中で明らかにしてまいります。**